

会議録

会議の名称	令和5年度 第2回社会教育委員の会会議
開催日時	令和5年11月17日(金) 16:00~17:15
開催場所	イイツカコミュニティセンター 2階 展示ホール
出席委員	檜原 理香、後藤 直巳、井上 節子、小田原 嘉朋、竹川 克幸、山本 和生、江藤 ふじ子、白石 かおり、仲野 靖彦、花岡 夏子
欠席委員	
事務局職員	教育部長、生涯学習課長、文化課長、生涯学習課長補佐兼中央公民館長、文化財保護推進室長、生涯学習係長、中央公民館・図書館係長、生涯学習ひろば整備担当主査、穂波交流センター長、庄内交流センター長、颯田センター長、事務局担当
会議内容	<p>1 開会 16:00</p> <p>2 教育委員会あいさつ(教育部長)</p> <p>本日は大変お忙しい中にも関わらず、令和5年度第2回飯塚社会教育委員の会会議に参加いただき誠にありがとうございます。</p> <p>また皆様には日頃から社会教育活動、学校教育活動の発展に格段のご理解ご尽力を賜り行っていることについてこの場を借りて御礼申し上げます。</p> <p>本日は、前回7月に行われました第1回の会議から大体約4ヶ月経っております。その間にコロナの方も一段落しておりましたことからですね様々なイベント活動の方が行われております。</p> <p>また社会教育委員の皆様にはですね、日頃からいろいろな研修会の方にも参加していただいているということでお話を聞いております。まことにありがとうございます。</p> <p>本日は所管課の方から、事務事業の進捗状況や生涯学習体系についての報告がございます。</p> <p>社会教育委員の皆様におかれましては、社会教育行政に行政外の立場から幅広い意見や助言をいただき、今後の飯塚市における教育の充実活性化に積極的に取り組んでいただきたいと思いますのでどうぞ忌憚のない率直なご意見を聞かせていただければというふうに考えています。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">委員による自己紹介</p> <p>3 案件</p>

<p>会議内容</p>	<p>1 議案事項</p> <p>(1) 議案第2号 令和5年度社会教育団体の登録について配布資料に基づき事務局より説明</p> <p>【質疑】</p> <p>(委員)</p> <p>社会教育委員が飯塚市小・中学校 PTA 連合会教育講演会に参加したい場合はどこで申し込みをしたらよいでしょうか。</p> <p>(生涯学習係長)</p> <p>申し込みの受付の方はこちらの方でしておりますので、もしよろしければお電話で結構ですので、ご連絡いただければと思います。</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 報告第6号 令和5年度 生涯学習課・文化課事業進捗状況について配布資料に基づき事務局より説明</p> <p>【質疑】</p> <p>(委員)</p> <p>未来塾は、来年も同様の内容でおこなうのですか。</p> <p>子どもたちはこの事業に参加して、本当に勉強になったのでしょうか。また、これは誰が最初に企画されたのですか。</p> <p>(生涯学習係長)</p> <p>この企画は、福岡県知事の方から飯塚市長の方にあった話でございます。</p> <p>嘉飯桂未来塾は、嘉飯桂地域の中学生を対象とした事業ですが、他の地域でも同様の事例として、例えば田川地域であれば、田川飛翔塾というのを実施しております。今回実施した嘉飯桂未来塾はその事業と同様の趣旨でリーダーを育成するための研修となっております。</p> <p>これから先福岡県全域で行っていくということであり、嘉飯桂地域では、福岡県、飯塚市、嘉麻市、桂川町、この4者で話し合いしながら、来年度も進めていく予定にしております。</p> <p>(委員)</p> <p>5日間という短い期間で子どもの経験になっているということですか。</p> <p>(生涯学習係長)</p> <p>はい。</p>
-------------	---

会議内容

(委員)

子どもたちは事前研修もなく、5日間の研修を行ったのですか。

通常だとリーダーについて時間をかけて教え込まなければいけないと思うのですが、この事業はそのような内容ではなく、1日1日それぞれ内容が違うようですが、子どもたちがリーダーとは何かについて本当に理解したのか疑問に思います。

子どもたちが嘉飯桂未来塾に参加はしているけどリーダーについて理解をできていないという状況になっていないのかについてお聞かせ願います。

(生涯学習係長)

現在、嘉飯桂未来塾の事業が終わり、参加者にそれぞれアンケートをとり、県の方ではその集計を行っているところでございます。

実際には言われるように、5日間の日程も決まっておりますので、設定した日に集まってもらい、その中で研修を行っていくという事業でございませう。

5日間でどれだけの成果があるかということについては、現段階ではわかりかねますが、今年行った中学生が来年度の後輩にこの事業で学んだことを引き継いでいただきたいという声もございませう。

(委員)

私はリーダーとは急にリーダーになるのではなく、常日頃勉強することでリーダーになっていくものだと思ひます。例えばスポーツ少年のリーダーなどは月々勉強会をしています。そのように様々な人の前で色々な体験しながら、自分でリーダーとはどうひうものかを体で覚えなければいけないと思ひます。例えば、人前での話し方などです。つまり50人いるなら50人をリーダーとして1人が引っ張ってひけるように育てる方法が必要だと思ひます。

なので、私はこの嘉飯桂未来塾を実施した際にこういった勉強を少しでも子ども達が行ったのかについてお伺ひしたいです。

(生涯学習係長)

確かに、この研修ではいろいろなところに行っております。しかし、カホアルペでの宿泊研修の中ではリーダー研修を行っております。例えば参加者がそれぞれリーダーとしての発表の仕方や個人の考え方をどうひうふうにとめていくかということについて学べるのできるグループワークなどです。

(委員)

私は、飯塚市だけでも勉強会されたらいいのではないかとひうこと

会議内容

が言いたいのですよ。

この研修に参加した子どもたちだけがリーダーになってもしょうがないと思うのですよね。飯塚市の中でも研修に参加できる人と参加できない人がいますけれど、多くの子どもたちにリーダーについて学んでもらうということに価値があるのですよ。

ちなみに広報に関してなのですが、市内中学校全校に広報活動はおこなったのですか。

(生涯学習係長)

この研修については飯塚市内の全小中学校の方にお知らせしてそこから参加者を募っております。

(委員)

それにしてもちょっと少ないですね。14名ほどでしたよね。

(生涯学習係長)

そうですね。本来は全体で30人を集める予定でした。

飯塚市と嘉麻市と桂川町の中学生を合わせて30人、そのうち22人の枠を飯塚市の参加者の枠としていたのですが、ちょうど今年の実施の時期が中学校の中体連の部活動大会等々もかぶっており、出席したいけどなかなか出席できないという意見もありましたので、結局そのうちの15人しか集まらなかったという結果になりました。

来年の実施につきましては開催時期についても考えて、開催の時期をずらし、中学生が参加しやすいような時期に実施して22名の定員を埋めることができるようにしたいと思います。

(委員)

同じような質問なのですが、リーダー育成ということで初めての試みで、これからの飯塚市を担う人材を作ることではとてもいいんじゃないかなと思いました。

参加した中学生の方たちがどういう目的だとか、どういう動機でこの研修にチャレンジするのかというところを研修参加前に自分で考えたのちに5日間体験をするということと、体験したことをどう生かしていくのかっていうのは繋がっていくと思います。

市の方も町の方も、そういった点を補っていただくことで、その後の教育とか来年度に向けて繋げていけるといいのではないかなと思います。

ただ、今のスライドショーでも、皆さんどういう気持ちで参加されているのかというところが全然見えてきませんでした。

1日でいろんな方の講演を聞いたり大学に見学に行ったり様々な体

会議内容

験をなさって、非常に日頃、体験しないことを体験するというのも、リーダーになるための要素としては非常に大事な要素だろうと思っ
ているんですけども、参加された中学生の方たちがこの会にどういう気
持ちで参加しているのかという目的をきちっと自分の中で、表現をし
てそしてそれを文章化して研修に臨むか、そうじゃないのとではずい
ぶん違うのではないかなと思います。

終わった後にその目的がどのように結果として現れたのかという
ことを書いて自分で振り返るっていうのも大事なことはないかな
と思いますし、それが次にまた繋げられるのではないかなと思いま
したので、ぜひそういう視点からも見ていただけるとありがたいな
と思います。

(生涯学習係長)

この研修の参加申込書には必ずリーダー育成研修に参加する目的
を書いていただくようにしております。

そういった中で多かったのが現在中学校で生徒会の役員に立候補し
ており、後輩たちを引っ張っていくためにこういった研修に参加して、
少しでもリーダーとしての力をつけたいというふうな目標を持った子
供たちが多かったことが印象に残っております。

また、今おっしゃったように研修生で集まったときに、どういう目的
でこの研修に参加するのか、そしてこの嘉飯桂地域をどういうふうに
将来していきたいのかというのをそれぞれ話し合っていて決めていって今
回、グループで一つの目標を決めて発表会を行っております。

また、この研修が終わる前にそれぞれの成果の感想とかも書いており
ます。

その感想については、今編集しており、今後最終的な報告書として上
がってきますので、その報告書できましたらまた皆さんの方にお見せ
したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(委員)

すいません。先ほどのご説明で県と嘉飯桂の関係という視点が出たの
でちょっとアドバイスをさせてください。本来、この嘉飯桂というの
は、福岡都市圏以外にも、例えば筑豊だったら直鞍ですねそういった
ところなどを地域振興していく上での多分プランの軸となる地域を指
す言葉です。現在体験型の炭鉱などを行う嘉飯物語というこの地域で
やっていたものがちょうどなくなりその後継みみたいな形で出てきた事
業がこの未来塾、若い人材を育てていくっていうものだと思います。

また、大学の授業などでは、リーダーシップという授業があります。
いわゆる地域の経営者などといった人たちを育てるという内容です。
ただそれも、委員がおっしゃるように、いろんな人材を育てるための

前提がありつつあるこの地域をどうするかという社会課題に向き合う。これは宗像などの様々な地域のモデルケースがあった後に嘉飯桂に来たというのはよくわかるのですけれども、

例えばこの嘉飯桂って名前も多分参加者は全然わからないと思うのですよ。

なんで嘉飯山じゃないのって嘉飯山をなぜ消すのと。もう決められたことだからいいのですが嘉麻市とか飯塚市とか桂川町とかの子どもたちがこういった地元のことを知っているのかを確認したうえでの嘉飯桂未来塾だと思っているのですよね。

学校の先生たちが困っているのはそういうことをやらなければいけない点ですよ。

やはり教育現場からしたら地元の歴史などでなぜこの地域は嘉麻市なのとか、飯塚なのとか多分これは少年の船の方でも同じようなことがいえると思うのですが。例えば、飯塚には旌忠公園がありますよね、旌忠公園には誰も今行かなくなっています。あそこが本当に戦争や平和にかかわりが深い場所なのに。嘉麻市には平和記念館がある。

やはり地元のことをプログラムに組み込んでとまでは言いませんがある程度抑えた上で、グローバルな話をしていくことが飯塚と地域のリーダーを育てるという視点ではよかったのではないのでしょうか。

また、そういったことをやはり多世代で、子供たちだけに任せるわけじゃなくて我々大人も学び直さないといけないと思います。未来塾をされる学びはとてもいいと思います。これからも続けて行ってほしいし、この一過性で終わって欲しくないなので、少年の船みたいなプログラムになるためには、先輩が後輩に教える中で地元のことも含めて教えて欲しいと思っています。本当は、このプログラムのそういった対象に嘉穂劇場が本当はなってほしいのですが、そういうことが今はできないので、伊藤伝衛門邸などをそういった対象として導入するなどといった工夫を今後していただければ、少し地元についての認識も深めていただけるのではないかと思います。

これは主幹ではないかもしれませんが、事業の企画をされている方にお伝えいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

はい、ありがとうございます。

大変参考になる意見をいただきまして、ぜひ来年度ですねその視点も入れていけるように計画についてもこれから協議をして決めていきます。

実施時期やどういう先生に来ていただいて講義をしていただくとか、どこに行くかという部分もございます。せっかく飯塚市には三つの大

学もございますし、その大学にも通われている先生とかもいらっしゃいますので、

そういった企画を話し合っ決めていきますが、今先生がおっしゃられたように関係地域や飯塚市の歴史も知っていきながら、グローバルな方向にリーダーとして育成してもらえる企画を作っていければと思っています。そういったお話ございましたら、皆さんの方にもご相談するかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

(委員)

私はですね、福岡県内のあちこちでグループワークのようなものを行って参りました。やはり2年生と言ったら中学校に次年度も在籍して、進学についていろいろとまだ考えられる時期ではありますが、私は3年生も取り入れた方がいいかなと思っているのですよね。

こういったプログラムに参加した際に2年生よりも3年生の方が将来のことを考える機会が多いと思います。

ちゃんと社会教育からどんな形で教えていくかなどの企画を立てて子どもに指導しないと、漠然とグループワークをして、みんなで盛り上がり上がってあれをしようというよりも、飯塚市だけで子どもに前もって学習をさせて嘉麻市、桂川町の人と合流したほうが良いと思います。土曜日の1時間・2時間でもそういった事前学習を行った後に、この研修に参加した方が子どもたちのために良いと思います。それが、リーダーはどういうものかということを知るためには必要だとも思います。

(事務局)

ありがとうございます。大変参考になりました。

学習する時間を取った後に、それぞれの訪問地に伺って勉強するということがなおい良いということがわかりましたので、そういった意見も参考にいたしまして来年のカリキュラムを協議していきたいと思います。

ありがとうございました。

(2) 報告第8号 飯塚市教育委員会事業評価結果、令和4年度分について配布資料に基づき事務局より説明

【質疑】

(委員)

11 ページの社会教育行政に係る審議会の開催についての意見等の社会教育委員の会議出席率が少ないのではないかと。少なくとも70%の出席が必要だといいますという点ですね。

これは我々の課題だと思います。

しっかりとその辺をやっぱ受け止めて出席していかなければならないのではないかなというふうに思いました。

(委員)

5事業ということなのですがいろんな事業をされている中からこの5事業を選んで受けた基準っていうのはありますか。

2点目の質問が最後に出ておりますキャリア教育の推進のステューデントシティとファイナンスパークについては初めてなので、次回の会議で結構ですが、学校に配ったチラシでもあればつけていただけたらと思います。

(教育部長)

選定基準について、私の方から説明させていただきます。

この10事業、学校教育で5事業、社会教育で5事業の選定というのは、教育部長の方でまず選定して教育長の方と相談して決定しているわけなのですが、教育部局内全体では140を超える事業があります。その中で毎年これを行っているもので、なるべく事業が被らないようにもしくはですね、前回、C評価っていうような低い評価がついたところの事業が改善されているかというような観点から選んでいます。つまり、事業が被らないようにそして低い評価が以前に出た部分についてはその改善がなされているかどうかっていうのを選定基準として選んでいるところでございます。

次のステューデントシティの関係ですがジュニア・アチーブメント事業は穂波庁舎の3階の方でやっており、学校教育課と生涯学習課それぞれが役割分担を持って二つの課が合同で行っていくという風になっております。副委員長の方からお話がありました資料については、次回提出の方をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

(委員)

はい、ありがとうございます。

ボランティア募集チラシもあったら一緒をお願いします。

(教育部長)

はいわかりました。

(委員)

すみません。先ほどの生涯学習体系とも若干関わるのですが評価書の14ページの評価者もICTの活用について述べられていたので、ICT

について述べさせていただこうと思います。私もよく教育現場で使っています。大学では本当に細かくオンラインで授業をやっています。対面もあるのですが、コロナ禍であろうがなかろうが、オンライン授業を先進的にうちはやっている大学です。ただ、小学校や中学校のこの不登校対策とかここにあったデジタルドリルなどそういうところで活用されているのは非常にいいことではあるのですが、やはり生涯学習体系の3ページの最後の文章なのですが、課題とか問題点のところにも他の自治体で電子図書や電子申請サービスとか記載してありますよね、そういうサービスが普及しているのはわかるんですけども、本市でも、書面や対面主義からデジタル化へと意識を高めていくことが必要と考えますという、要するに教育の現場とか教育のサービスにおける書面をなくす、対面をなくしていくということですよ。私は教育とは対面が原則だと思っているので、要は補助的にデジタルなり ICT を活用していただくのは結構なのですが、これから通常に戻っていかようとしている社会情勢の中でよく飯塚市さんだけじゃなくて他の行政さんでもこういう文章を記載するよなと思います。

デジタル化を促進していくというのは国の方針だからわかるのですが、気になるのは対面主義や書面が要するに古いものであり、古いスタイルは捨てていくんだみたいなことを歴史や文化の人間なので私は感じます。

初代飯塚市長さんの言葉で稽古照今という言葉があります。これは温故知新でもいいのですが、緊急事態だったことが要因となり ICT とかオンラインが加速したのです。それは教育の現場にいる私もわかっていますけれども、ただもう一度ちょっと立ち止まって考えていただきたいことはやはり先ほどの少年の船とか嘉飯桂未来のリーダー育成などの対面の事業が行われている中で、本当にオンラインなどが加速して大丈夫なのか。今地域のおじいちゃんとかおばあちゃんはどこに行ったのかということや、過去帳がわからないお葬式をどうしたらいいだろうかということとそういうことが本当に現実には起きています個人情報保護とかデジタルの問題の中で家庭での教育のスタイルとかにもおじいちゃんの名前まで忘れてはないと思いますけど、その前の人の名がわからないとかね。

デジタル化のちょっとこれは社会全体の話なので、そこをちょっと慎重に評価は評価でいいのですが、若干気になりました。ヒアリングをしていただくなり現場の先生たちの声とかですねそういったことも少し考慮していただいてこれは事業評価なのでいいのですが、おそらく教育委員会の方がよくおわかりでしょうけれども、実際現場の先生たちがいろいろ困っちゃったりする場合があります。ICTの推進委員とかどこに相談したらいいのとかですねこれは親御さんもそうですけどタブレットだけもらったけど、学校の先生に聞いても分

からなくて親が相談されても子どもの質問に答えられないとかそういうことがやっぱり現場で起きているのでそういったことを将来の課題として考えていただければと。

(委員)

個性を生かすのは、要するに自分たちが持っているか持っていないかですね。

対面する人がその子に個性があってもいやそれは駄目だというのはおかしいと思うのですよ。

ですから、私も今私達頑張って社会教育している。あれもこれもするというのは、やっぱりできないと思うので、自分のできる社会活動を目指していきたいと思っています。

賢く優しくたくましい、これも当たり前ですねこれができないのですよ。いつでもどこでも、いわゆる 5 人から始めて大勢でなくてもいいと。

ですから、自分たちのできることを少しやさしく解釈しながらしていったらいいなと思います。

4 その他

【質疑】

(委員)

市長選の中で給食費を無料にしようという公約を 3 人とも立てていらっしゃいました。

武井市長も公約給食費無料にしようとおっしゃっていたと思うので学校教育からもぜひこの公約の実行をしていただきたいなと思っています。

現在、婦人会で子ども食堂をしておりますけど、本当に貧困が目立ちます。

学校給食費に関して、子供が 5 人 7 人いるところは、免税があってもお金を何万も払うのはきつんだっていうお母さんの声を切実に聞きます。

やっぱ給食費の無償化が実現すれば、塾代とかいろんな形でお金がお金の方に流れていくと思います。給食費を無料にすることで家庭が少し楽になると思いますので、ぜひ学校教育は、そういう実現に向けてください。

よろしくをお願いします。

(委員)

給食費を無償化した場合、財源はあるんですか。

(教育部長)

委員さんがおっしゃられていた学校給食費の無償化についてなんですけれども私も最初新聞で見たときには、穂波での説明会の際立候補3人の討論会のときにはですね、3人とも無償化するということで見ておりました。

ただその後ですね、投票直前のところで西日本新聞の方が、いくつかある項目の一つの給食費の無償化については賛成ですか反対ですかどちらとも言えないという回答の中でどれですかって言ったときに、給食費の無償化に賛成とはっきり謳われたのは、ひとりの候補者だけだったというふうに記憶しております。

その上でおっしゃられている部分についてはそういうご意見があったということではもちろん伝えますけれども。

今ご質問があっているどのくらい費用があれば給食費が無料になるのかって言ったら給食費年間で大体5億円かかっております。これは食材費のみです。食材費っていうのはお肉とか野菜とかパンとか牛乳とかそういったものです。それを調理していただいている。業者さんの委託費は入っていません。

8月の終わりぐらいですかね、広島の方で給食を作っている会社の方が、急に倒産してしまったんですね。あのときのニュースを見ていたら、倒産した会社の方がどうも食材まで持っていたみたいで、結局災害の非常食を出したとかいうようなニュースもちょっと私見たんですね。そういった意味では飯塚市は食材と調理は分離していますので、そこはもう安心であります。調理がうまくいかなかったときは業務の完成保証につけていますので、おっしゃられる食材費のみの部分で大体年間5億円。これを無料にするっていうことになりますと今、無料になっている世帯というのは生活保護をいただいている世帯です。

それからあと、生活保護の基準のうち2.5倍基準を引き上げて、就学援助の対象にしています。ここまで無償にしているのだから、残ったところがいくらだと、実際お金をいただいているのがいくらだということになると大体3億円ですね。この3億円について今回立候補された方それぞれの考え方で、例えばふるさと納税を原資にしたらいいのではないとか、いやいや、そうではなくここはもうちょっとそういったお金があるのだったら他のとこに回してもいいんじゃないかなど、それぞれの政策で戦われた結果でございます。

ただ今回こういったご意見が出たという当然お伝えをしていきますし、無償にするにはいくらなのかというご質問を受けたということをお伝えおきます。

無償にするため、原資があるのかと言われたら、これはもう内部の政策的な部分になりますので、ちょっと私の方では何ともいえません。

<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・令和5年度社会教育団体の登録について ・令和5年度生涯学習課・文化課事業進捗状況 ・令和5年度生涯学習体系 ・飯塚市教育委員会事業評価結果（令和4年度分） ・市P連教育講演会のご案内 ・嘉飯桂未来塾 実施状況の写真
<p>公開・非公開の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者0人)</p>
<p>その他 (非公開理由等)</p>	